

三・四階以上の建物での給水例

(1) 直結方式 + 受水槽方式

5 階	受水槽 直 結
4 階	
3 階	
2 階	
1 階	

4階までは直結給水、5階以上は受水槽給水

直結方式 + 受水槽方式

5 階	受水槽
4 階	
3 階	
2 階	直 結
1 階	

2階までは直結給水、3階以上は受水槽給水

(2) 直結増圧方式 又は 受水槽方式

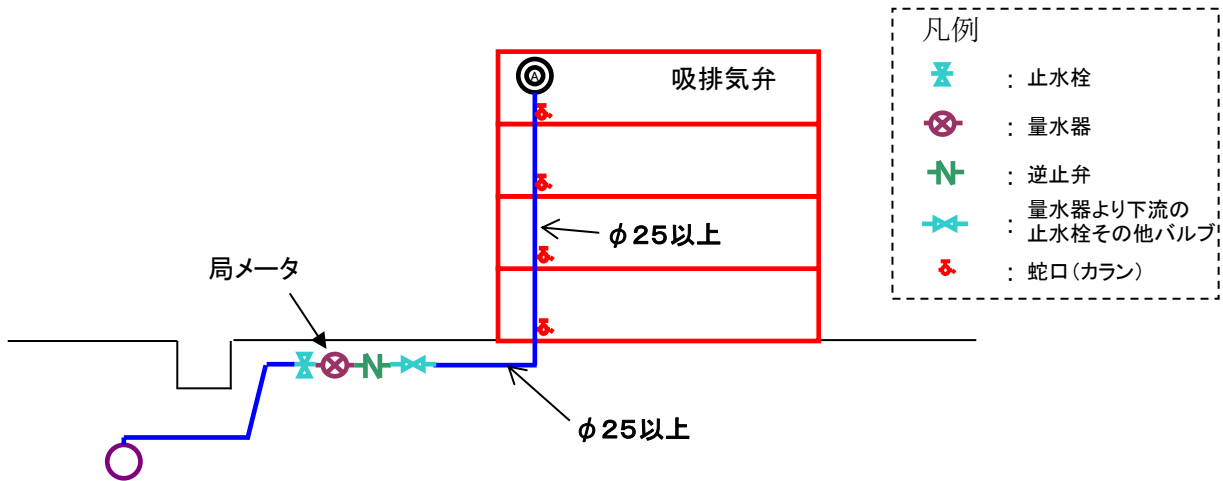
5 階	受水槽 または 直結増圧
4 階	
3 階	
2 階	
1 階	

全てが直結増圧給水 または 受水槽給水

(1) 直結方式の例

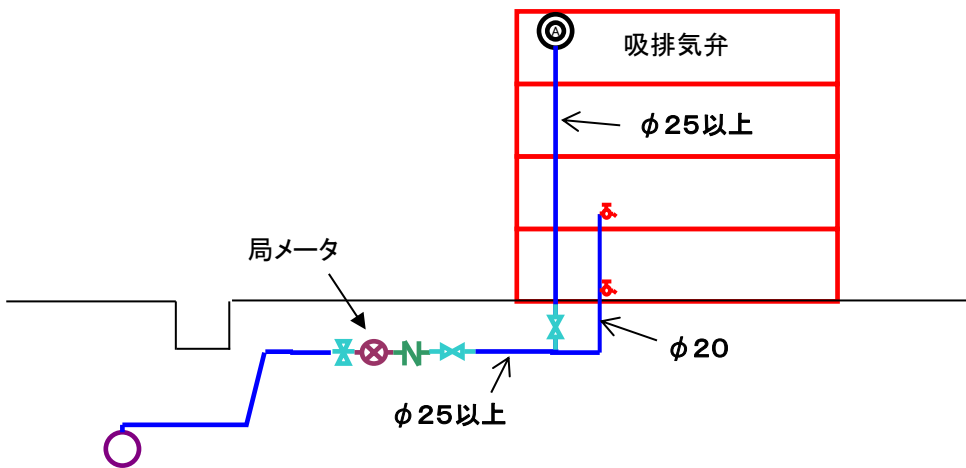
1. 一戸建て住宅

(例 1-1) 一戸建て住宅 (立ち上がり管が4階まで共通)

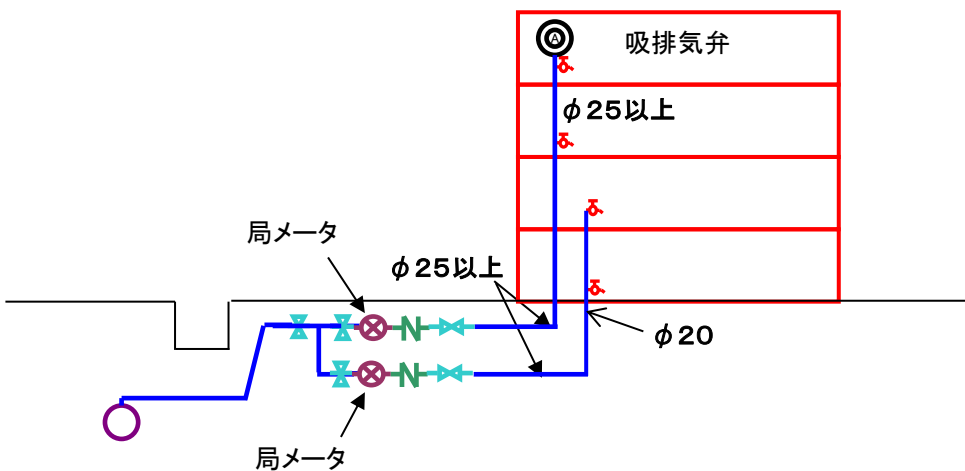


2. 集合住宅 (給水戸数2戸の場合)

(例 1-2) 1戸建て住宅 (3・4階立ち上がり管別途)

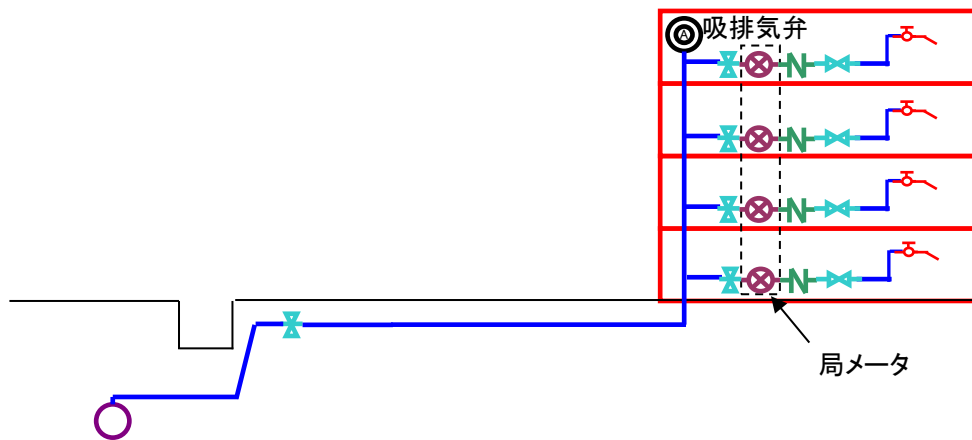


(例 2) 給水戸数2戸 (1・2階で1戸、3・4階で1戸)

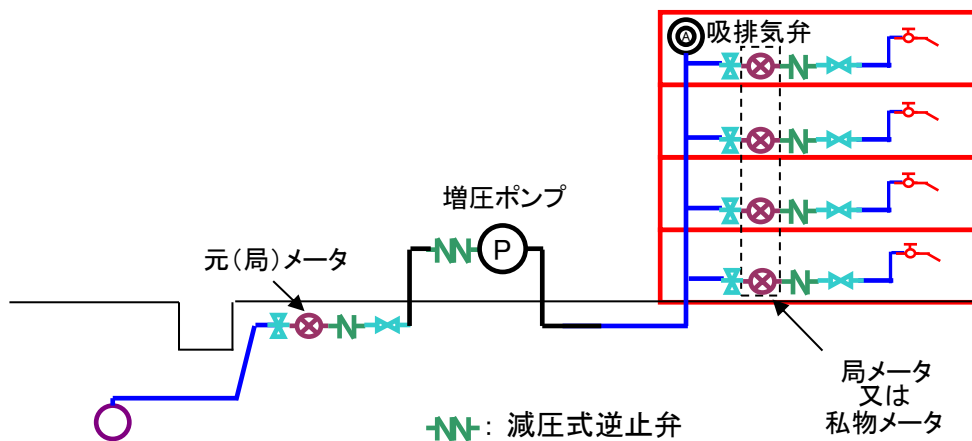


3. 集合住宅（給水戸数4戸の場合）

（例 3-1）集合住宅（パイプシャフト内・直圧）



（例 3-2）集合住宅（パイプシャフト内・直結増圧）



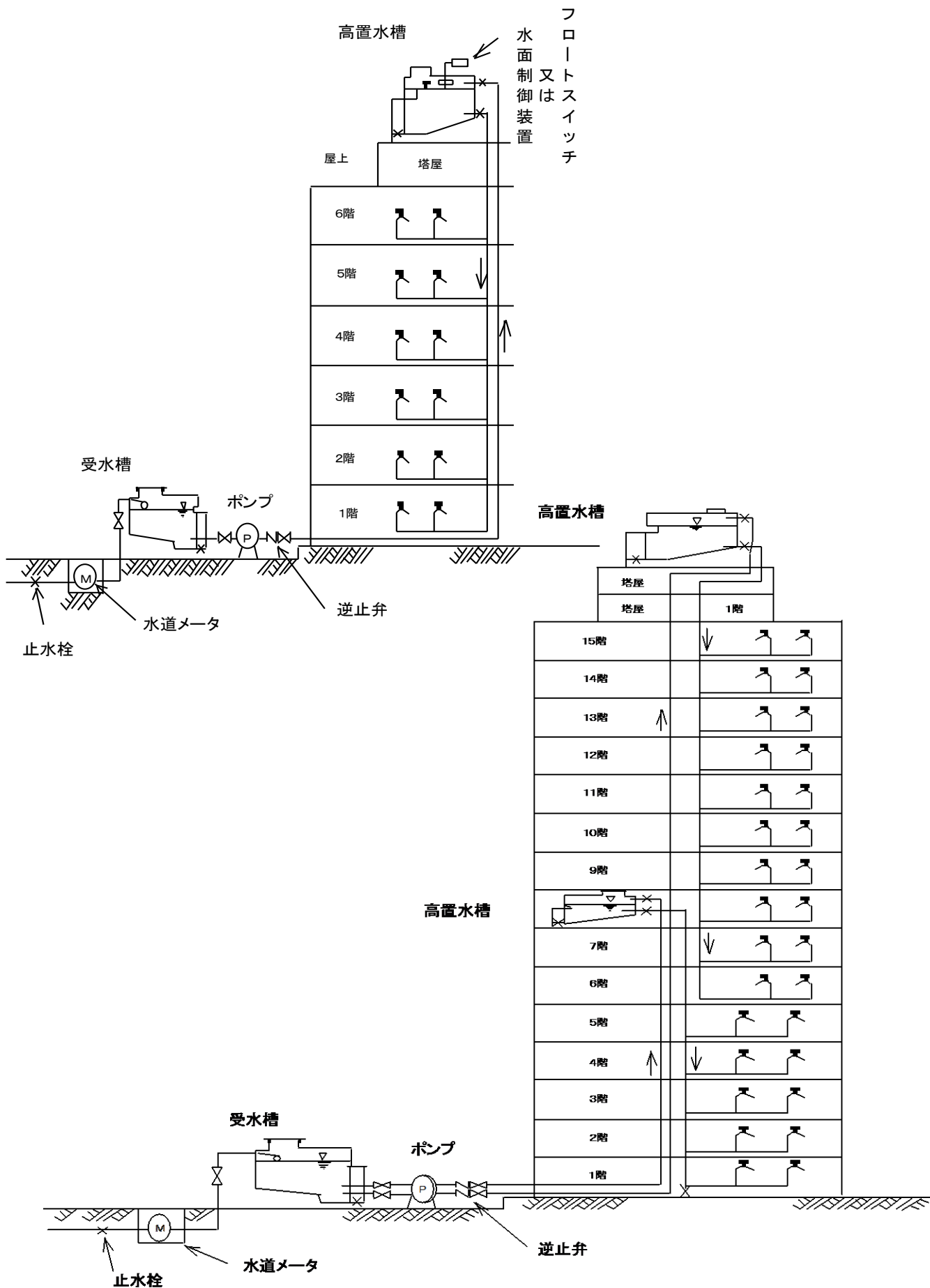
元（局）メータで管理する方式と各戸メータで管理する方式を選択する。

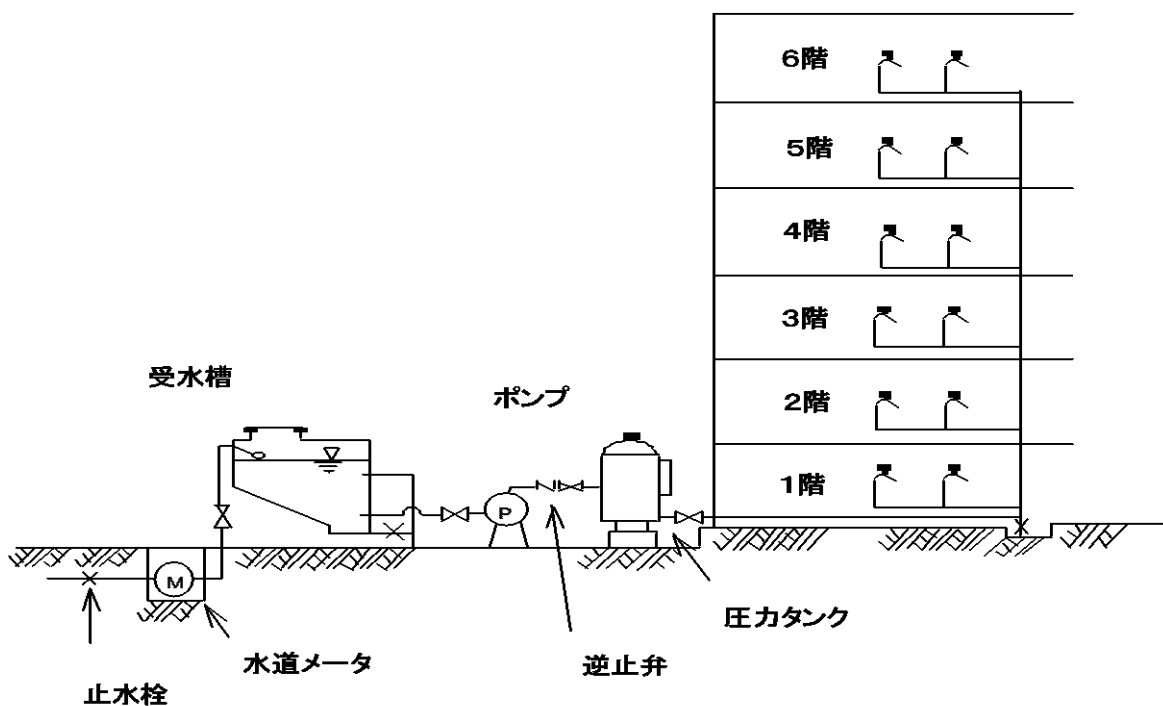
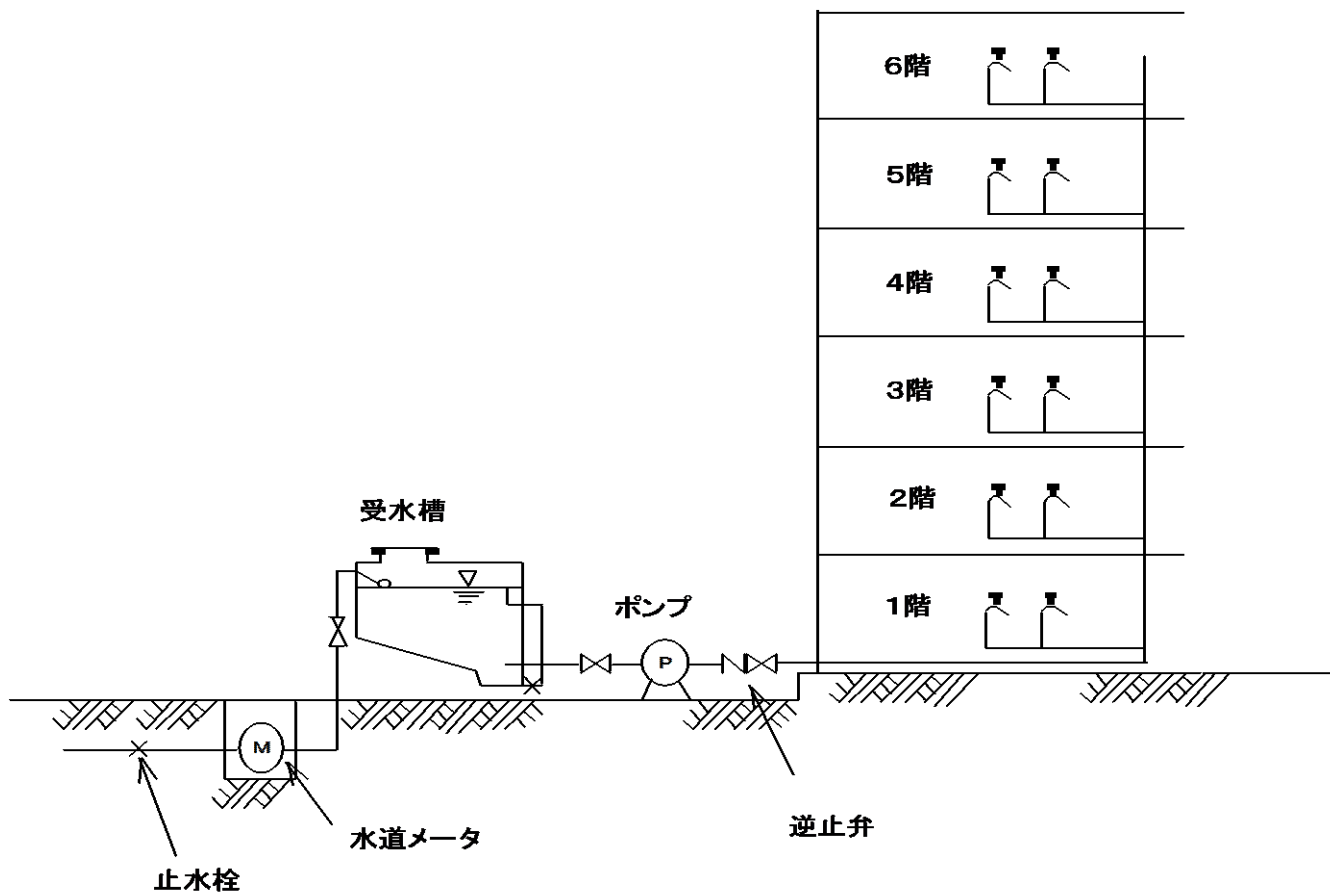
（ア）各戸メータを局メータとする場合と、（イ）元メータのみ局メータする場合 を選択可能とする。

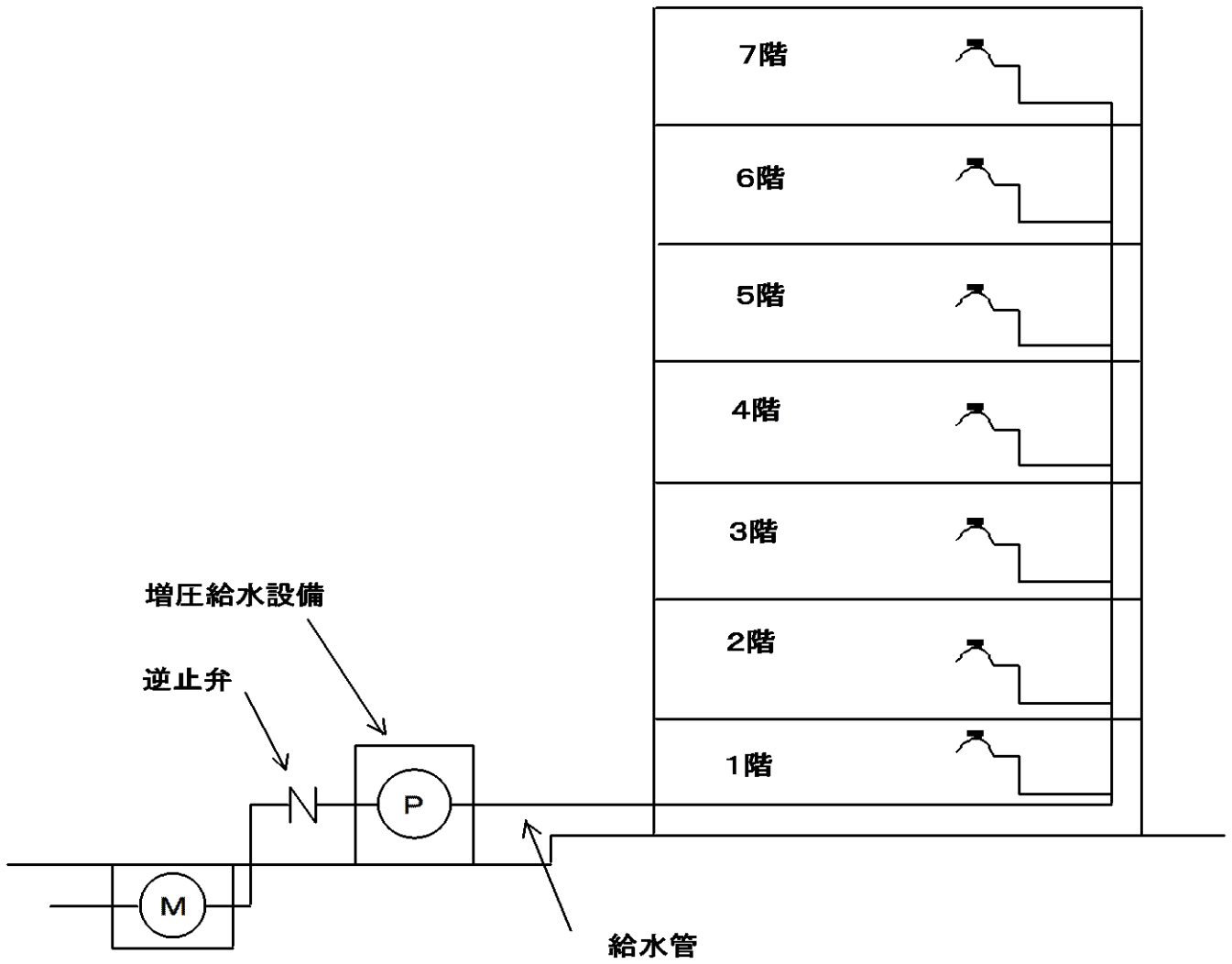
検針は、（ア）の場合は企業局が各戸メータについて行い、各戸へ水道料金を請求するが、（イ）の場合は元メータのみ行い、建物管理者へ建物全体の水道料金を請求することになる。

計量法に伴う、メータ交換（8年ごと）は、（ア）の場合は各戸メータ全てを企業局が行い、（イ）の場合は建物管理者が行うことになる。






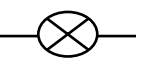
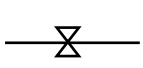
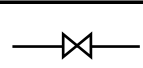
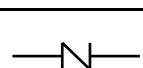
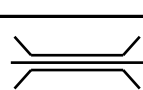
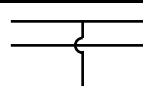
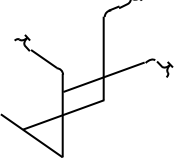
高層建物に対する給水方式図







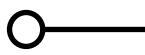
給 水 装 置 記 号 表

管 路 の 記 号												
	新設給水栓	赤実線 管種・口径・延長は赤書きとし、管種は次の記号で書く。										
		<table border="1"> <tr> <td>塗覆鉛管-LPV</td> <td>鉛管-LP</td> </tr> <tr> <td>塗覆鋼管-SGPV</td> <td>銅管-CP</td> </tr> <tr> <td>铸铁管-CIP</td> <td>ビニル管-HIVP</td> </tr> <tr> <td>ポリエチレン管-PE</td> <td>ライニング鋼管-VLGP</td> </tr> <tr> <td>石綿管-ACP</td> <td>ダクトイル铸铁管-DIP</td> </tr> </table>	塗覆鉛管-LPV	鉛管-LP	塗覆鋼管-SGPV	銅管-CP	铸铁管-CIP	ビニル管-HIVP	ポリエチレン管-PE	ライニング鋼管-VLGP	石綿管-ACP	ダクトイル铸铁管-DIP
		塗覆鉛管-LPV	鉛管-LP									
		塗覆鋼管-SGPV	銅管-CP									
		铸铁管-CIP	ビニル管-HIVP									
		ポリエチレン管-PE	ライニング鋼管-VLGP									
石綿管-ACP	ダクトイル铸铁管-DIP											
	既設給水栓	黒又は青点斜線（口径記入）記号は同上										
	新設支分引用本線	赤点線 記号は同上										
	撤去又は埋殺し管	黒又は青点線 記号は同上										
	消火栓	赤書 既設の場合はいずれも黒又は青書きとする。										
	量水器											
	止水栓											
	量水器より下流の止水栓その他バルブ											
	逆止弁											
	保護管（さや管）											
	平面給水管の交差											
	立体給水管の交差											

管 路 の 記 号



給水栓品名を記入すること



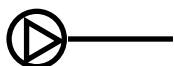
フラッシュバルブ



ボールタップ



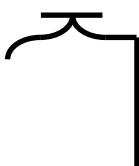
双口給水栓



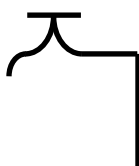
特殊給水栓



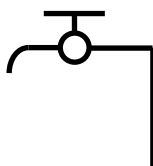
水栓柱



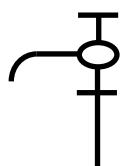
普通給水栓



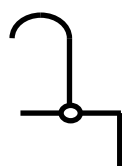
胴長給水栓



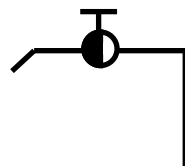
自在給水栓



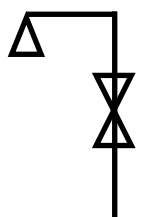
縦給水栓



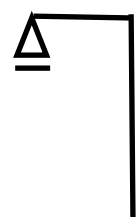
スワン形自在
給水栓



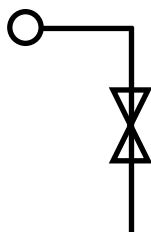
混合水栓



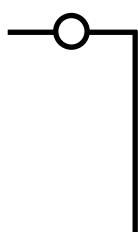
シャワー給水栓



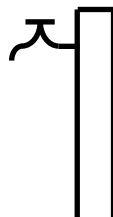
衛生給水栓



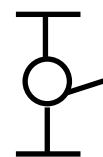
ボールタップ



フラッシュバルブ



水栓柱



散水栓

新設の場合は赤書きとし、既設の場合は黒又は青書きとする。

水栓類は（上記を含む。）品名を明記する。

貯 水 槽

ポ ン プ

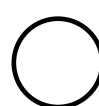
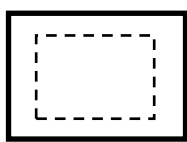
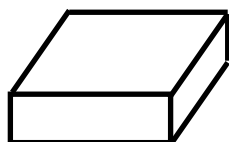
井 戸

立 体

平 面

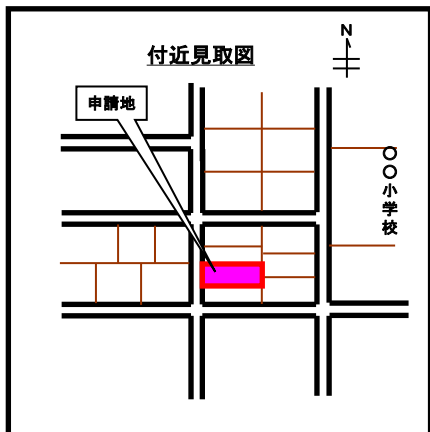
立 体

平 面

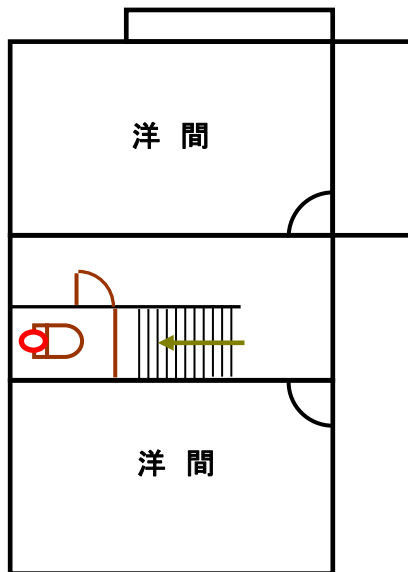


その他の構造物については名称を明記すること。

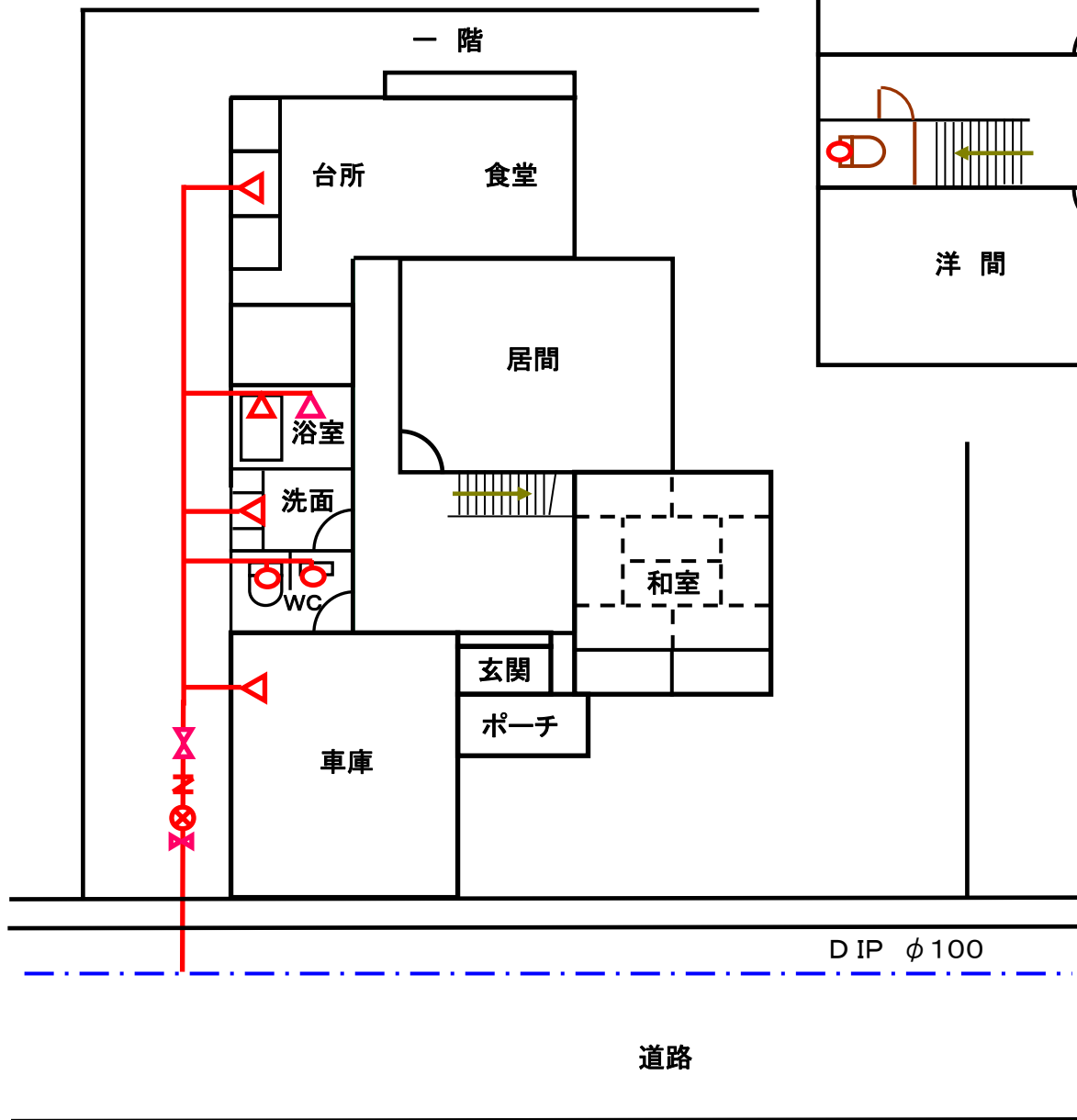
平 面 図



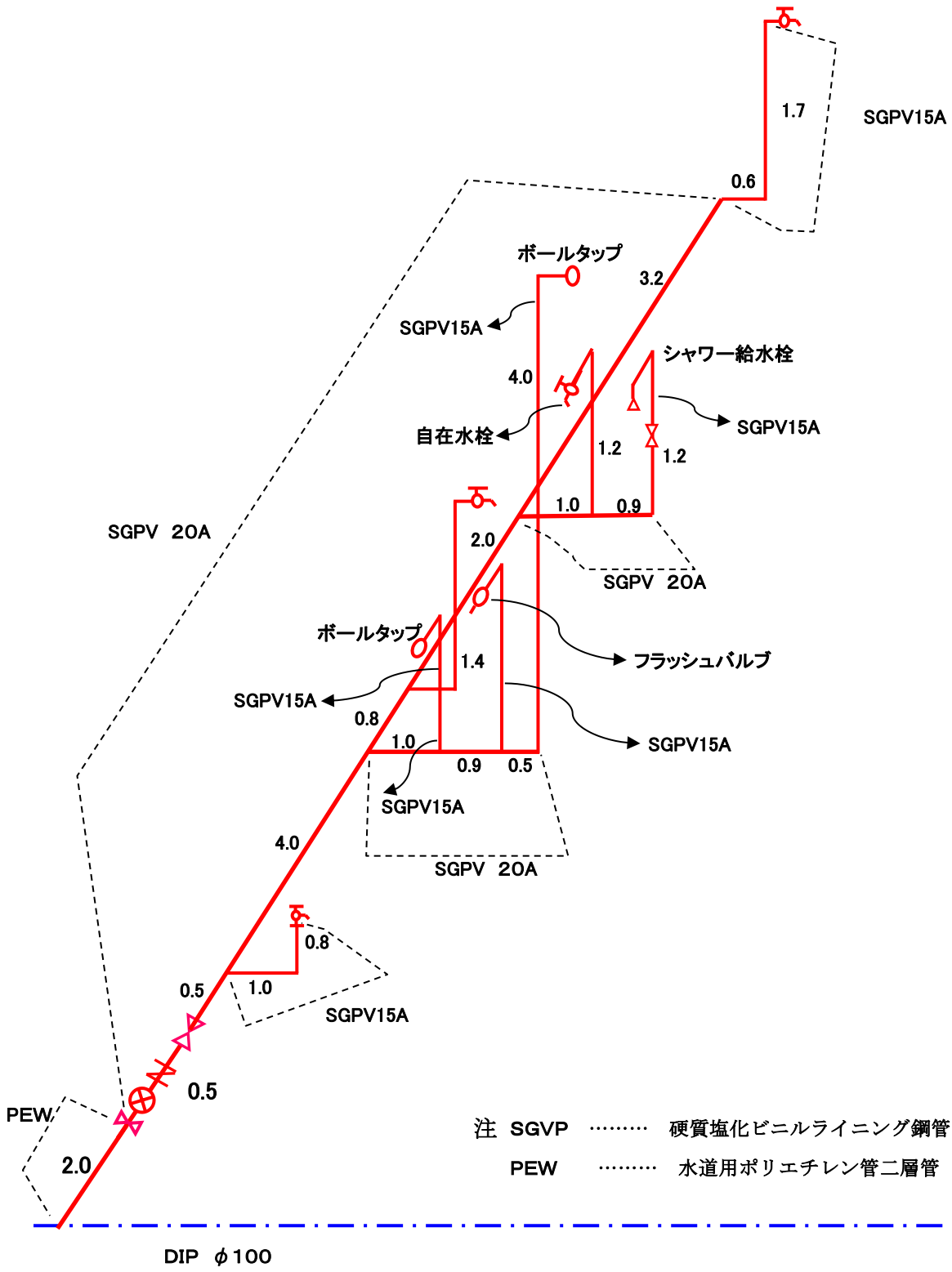
二階



一階

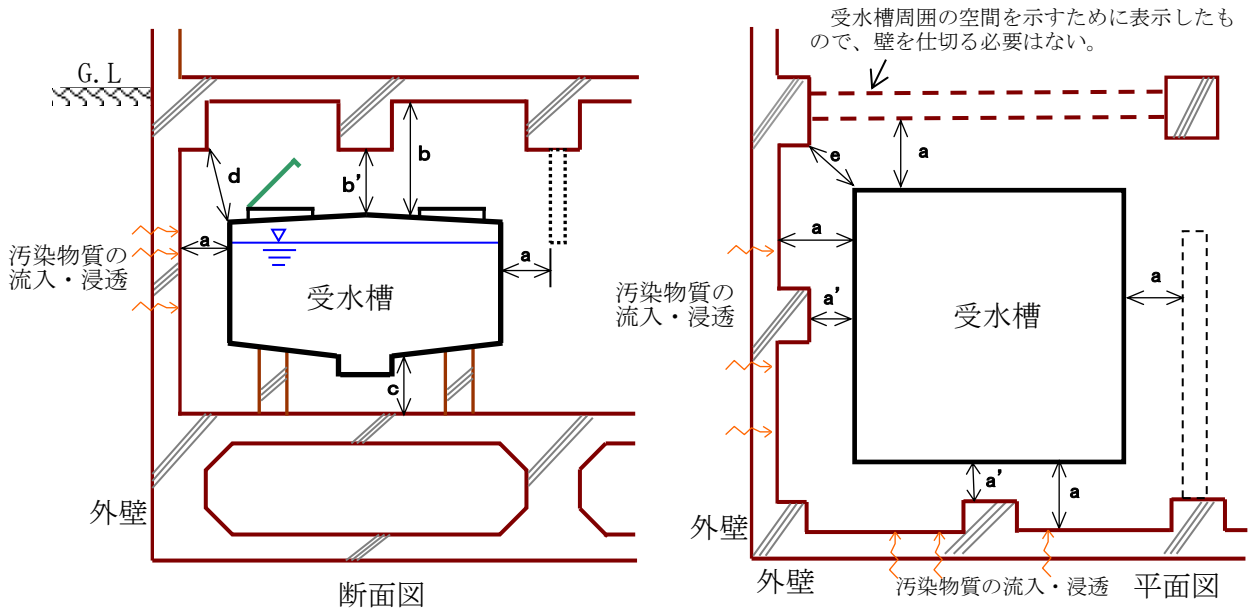


立 体 図

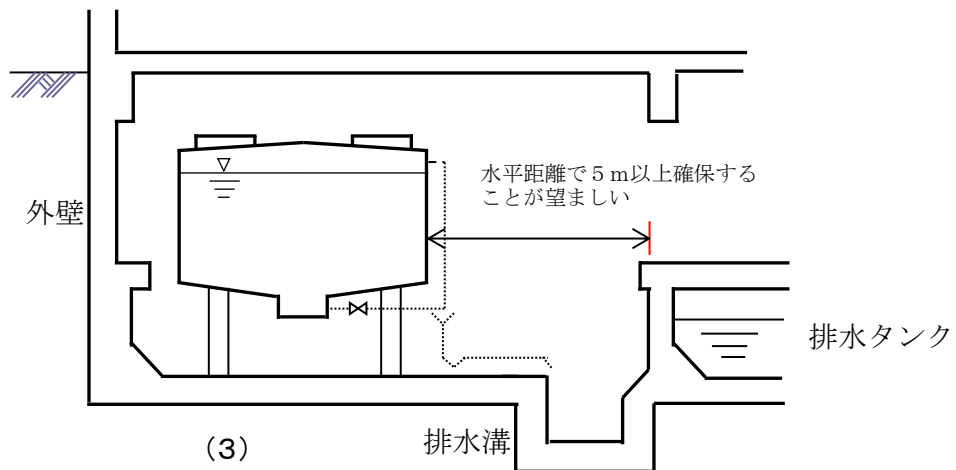
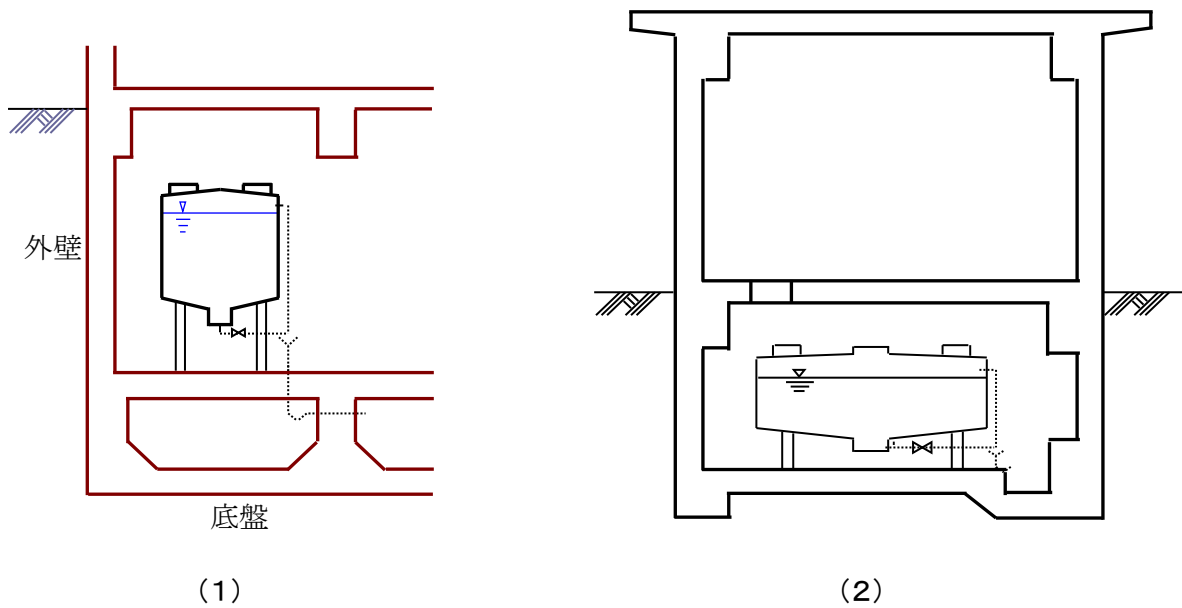


注 SGVP 硬質塩化ビニルライニング鋼管
 PEW 水道用ポリエチレン管二層管

受水槽等の設置位置

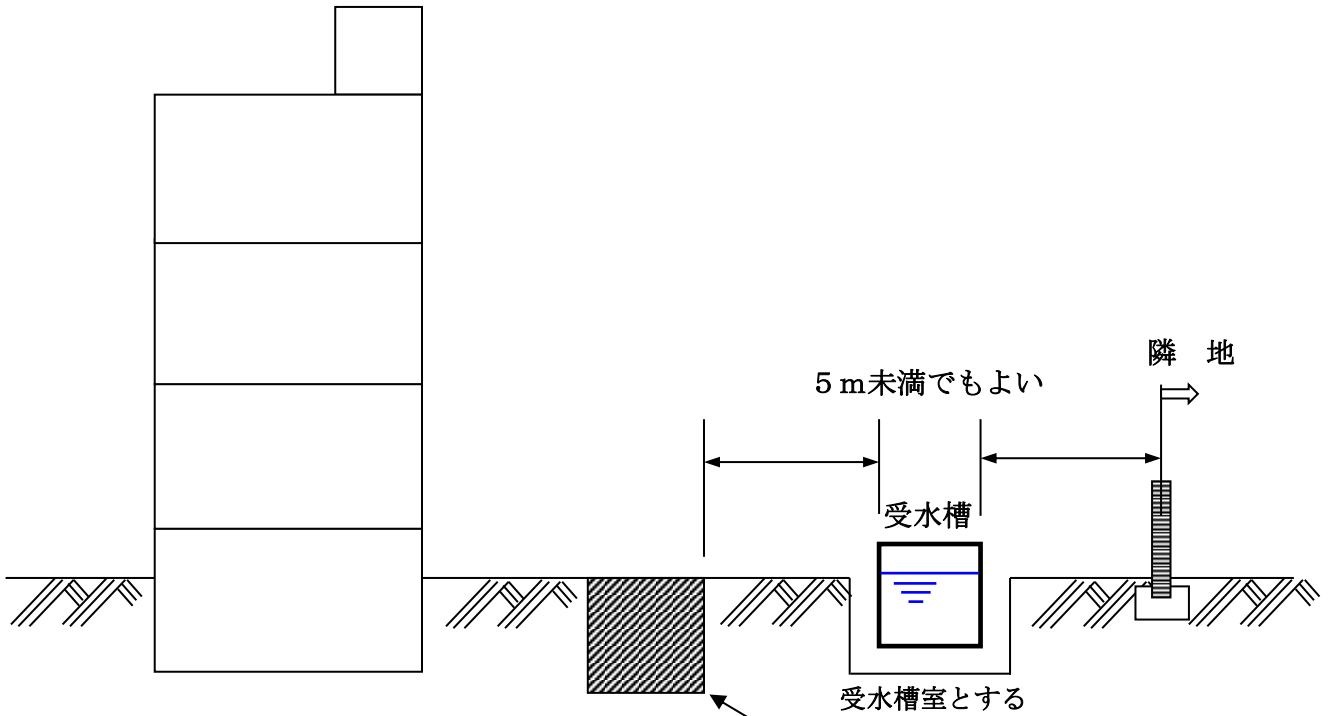


a, b, c のいずれも保守点検が容易にできる距離とする。（標準的には、 $a, c \geq 60 \text{ cm}$ 、 $b \geq 100 \text{ cm}$ 。）また、梁・柱等はマンホールの出入りに支障となる位置としてはならず、 a' 、 b' 、 d 、 e は保守点検に支障のない距離とする。



(1)、(2)、(3) いずれの場合も、オーバーフロー管、水抜き管、通気装置を設けなければならない。

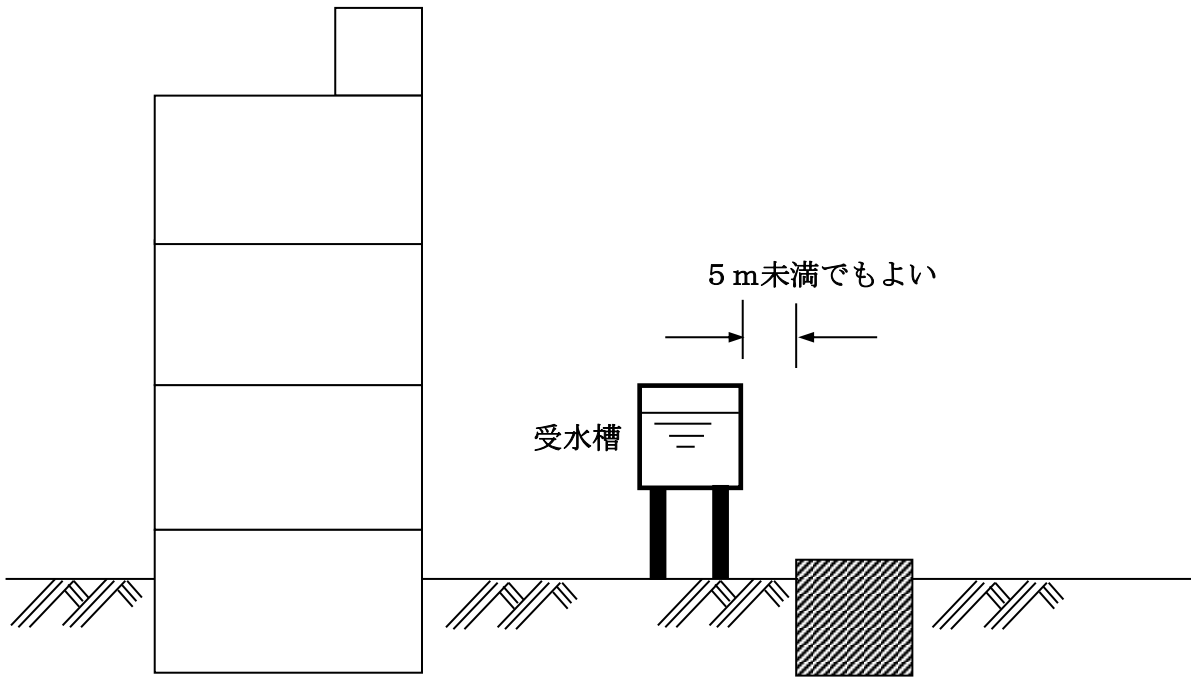
規定に適合した受水槽等の構造例



外部から受水槽等の天井、底または周壁の保守点検を容易に行えるよう設ける。

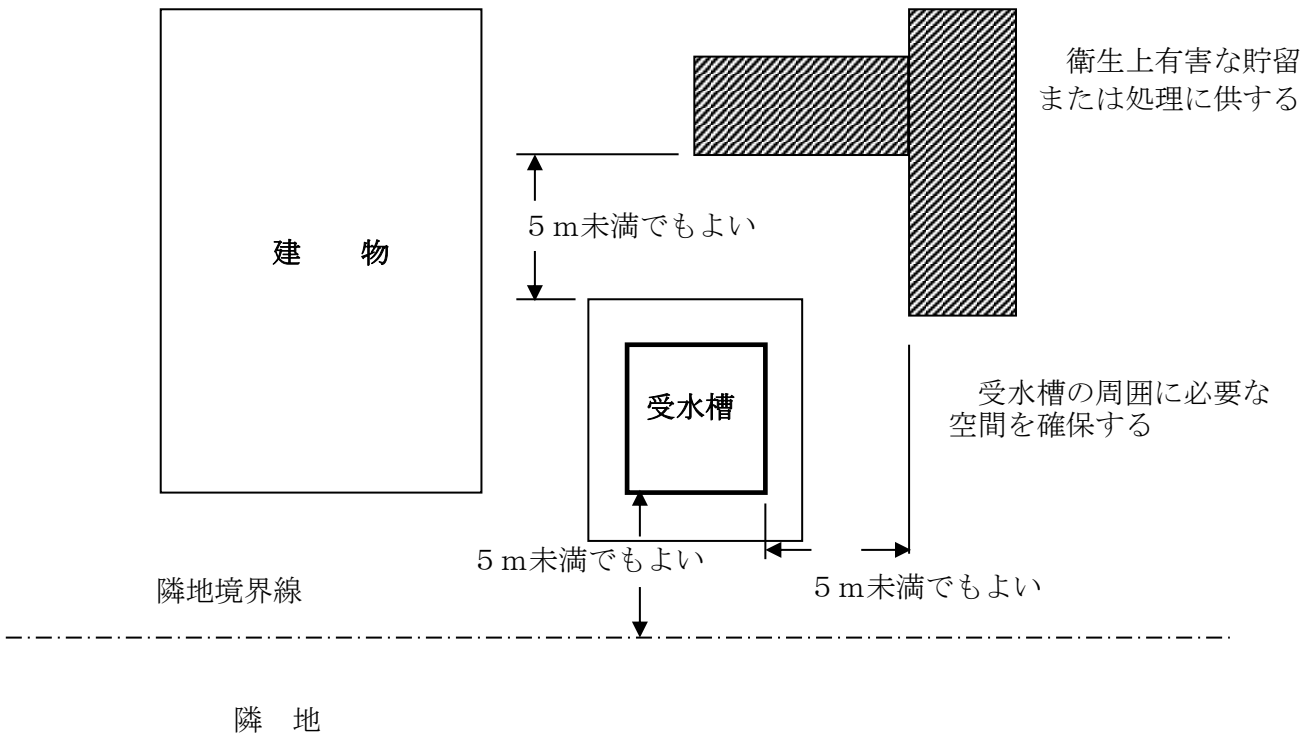
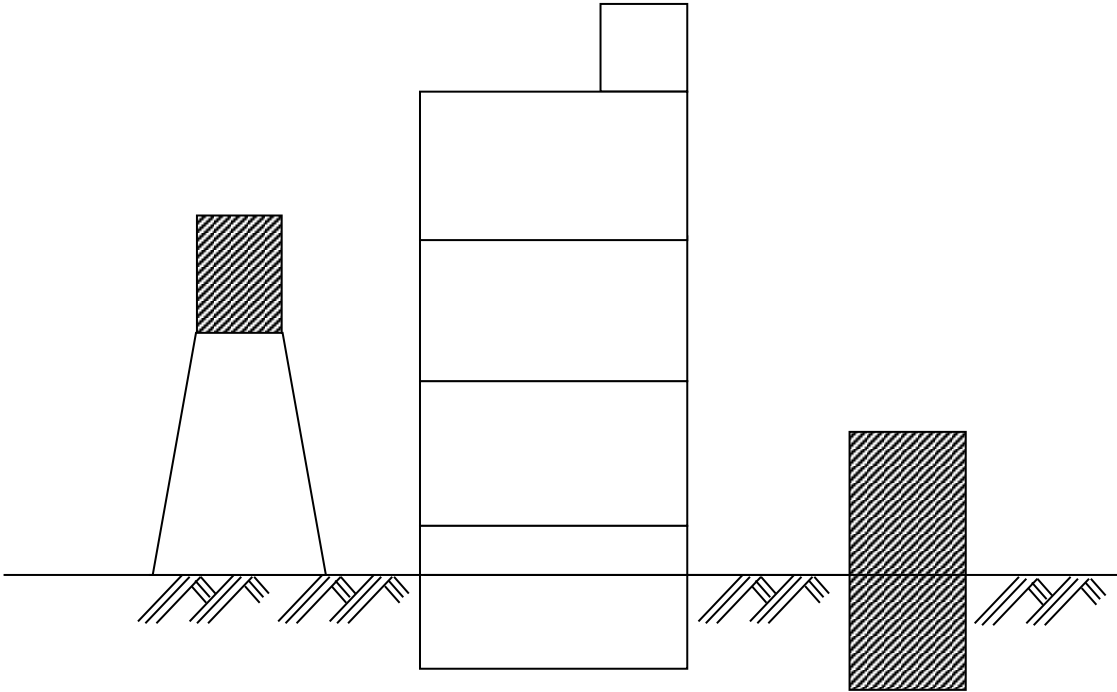
従って、受水槽室を設け、その中に受水槽を設置する必要がある。

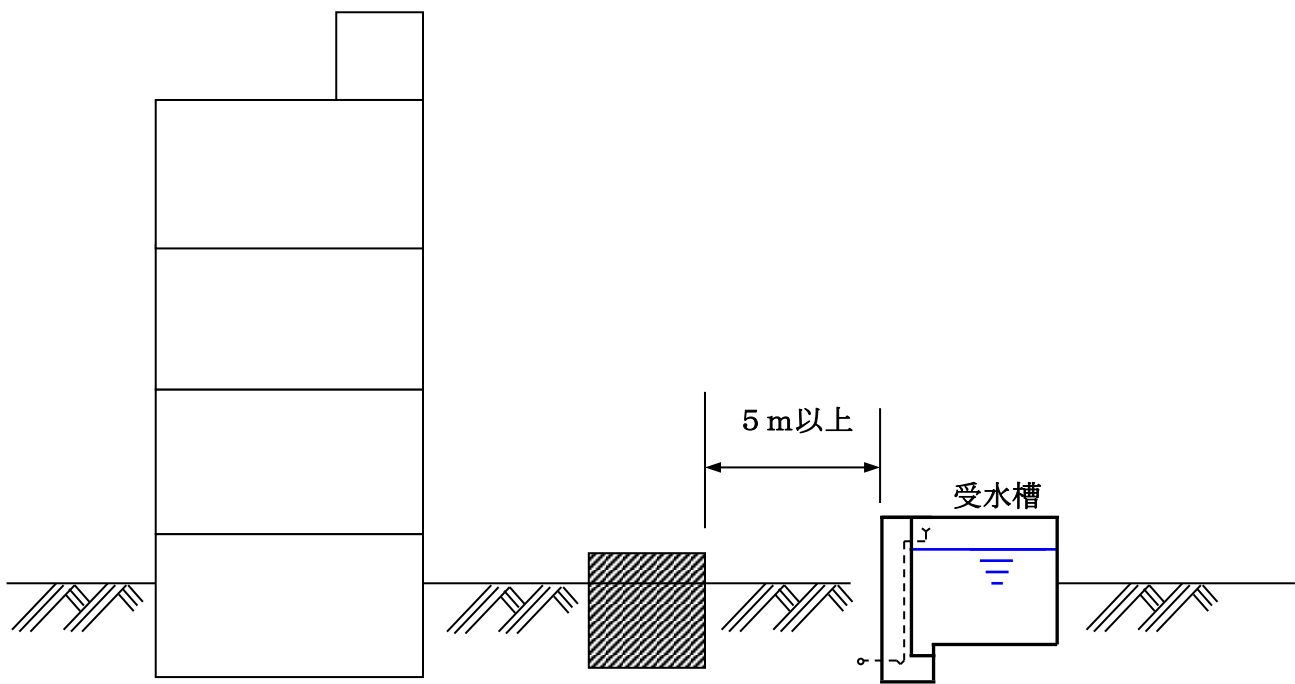
衛生上有害な物の貯留または処理に供する施設



受水槽の底が地盤面より上にある。

衛生上有害な物の貯留または処理に供する施設と受水槽との関係





受水槽には、オーバーフロー管と水抜き管を規定により設けること。

衛生上有害な物の貯留または処理に供する施設

受水槽と有害物質の貯留または処理施設とが5 m以上離れている。